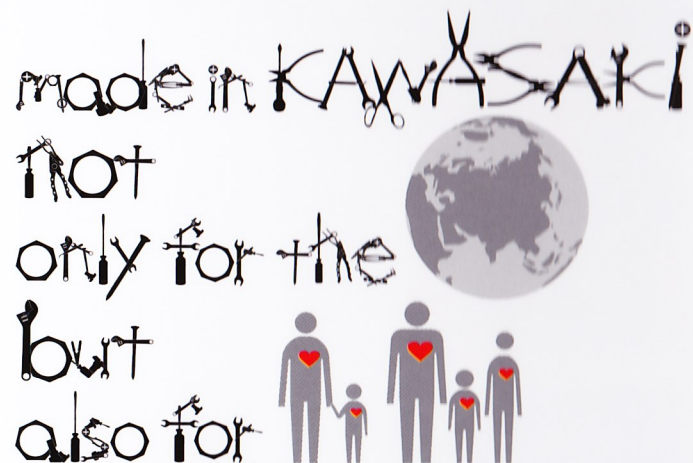


国際イノベーション都市・川崎への道

新 川崎元気企業

公益財団法人 川崎市産業振興財団 [編]
川崎元気企業研究会 [著]



新

川崎元気企業

国際イノベーション都市・川崎への道



9784876455072



1920034020005

ISBN978-4-87645-507-2
C0034 ¥2000E

定価：本体2,000円+税
神奈川新聞社

国際イノベーション都市・川崎への道

新 川崎元気企業

公益財団法人 川崎市産業振興財団 [編]
川崎元気企業研究会 [著]



世界に誇る元気な企業 60社を一挙紹介!

3つのイノベーション(環境、医療・生命、福祉)により
国際社会への貢献を目指す、
卓越した技術・頭脳がここに!

神奈川新聞社 定価：本体2,000円+税

公益財団法人
川崎市産業振興財団 [編]
川崎元気企業研究会 [著]

神奈川新聞社

川崎元気企業第3弾

多様な〈創造人材〉とその〈連携〉に、 川崎の底知れぬ強みが!

- 第一部 川崎市経済・産業と国際イノベーション都市・川崎の新展開
- 第二部 元気企業60社の現状と展望
- 第三部 **対談** 国際イノベーション都市・川崎を目指して

有限会社日成工業

家族経営で切削加工の限界に挑戦



切削加工事例

「当社は、難しい案件でも決して断わりません」と野田照男社長、長男である野田宜志営業部長は断言する。難しい案件こそ、完璧なものを造ろうと気持ちが高ぶるという。

「切削加工の限界に挑戦」をキーワードに、そのチャレンジ精神が元気の源だ。

●創業から現在まで

有限会社日成工業は、一九七八年に野田社長がプラスチック加工会社から独立し、金属・樹脂の切削加工会社を創業したところから始まる。高い技術力を持つ同社は、取引先から厚い信頼を寄せられ、

確実に受注を伸ばしていった。順調な経営状況の下、野田社長はある課題も抱えていた。コンピュータの時代となり台頭しつつあったNC（数値制御）工作機の導入である。その課題を解決し社内に新しい風を吹き込むため、宜志氏を同社の一員に迎え入れた。

野田部長は異色の経歴を持つ。証券会社から株専門の出版社へ転職したのち、同社に入社した。入社当時、機械加工の経験はなく独学で技術を修得した。「誰かに付いて学ぶことは全く考えなかったです。その人以上の技術が身に付くとは思えず、ゆっくり教えてもらおう時間もなかったからです」と野田部長は語る。工作機械メーカーが主催する高額な有料セミナーへの参加や、機械加工に関する本を毎月五冊以上読み込み、時には納得する加工ができるまで会社に寝泊まりすることもあったという。野田部長の、手間・費用・時間を惜しまず費やした努力が報われ、同社はNC工作機、マシニングセンタによる高い加工技術を持つ会社として広く知られるようになった。

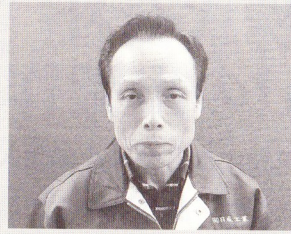
●誇るべき技術力で

長年にわたり蓄積されたノウハウや職人技によるローテク技術と、最新のマシニングセンタによる同時五軸加工（XYZ軸に加え、二軸を同時に制御できる加工法）などの複合技術や小径工具を用いた微細加工のハイテク技術を兼ね備えており、特に難削材、難形状の加工を得意としている。

同社が加工した製品を見ると、一見ただの樹脂性の部品だが、蛍光灯にかざすとわずかだが光が見える。光の正体は切削加工した穴だ。小さな穴はなんと〇・〇七mmである。髪の毛の平均的な太

会社概要

企業名：有限会社日成工業
創業：1978年4月
所在地：川崎市中原区宮内2-24-1
電話：044-797-2223
代表：野田 照男（ノダ テルオ）
資本金：1,000万円
従業員：5名
事業内容：樹脂部品・金属部品の各種試作品製作、超精密切削加工、研磨加工
URL：http://www.nissei-kogyo.net/



日成工業社長 野田照男

さは〇・〇八mmというから、どれほど穴が小さいかが分かる。他社では難しいとされる加工技術を持つているため、全国から駆け込みで単価の高い仕事の依頼がくる。他社で対応できず断られた案件が同社にくることも度々あるという。

そういう時こそ、「絶対に成功させよう」と使命感に燃え上がるという。高価な材料や工具が破損するリスクを恐れず、果敢に機械加工に挑む。未経験の加工は見積もり前に試作を行う。その後、価格の折り合いがつかずに正式な受注に結び付かないこともある。それでも試作品を作ったことは無駄にはならなかったという。加工のノウハウを新たに得ることができ、その積み重ねにより今の技術力を確立できたのである。

●家族経営だからできること

同社は従業員五名の家族経営だ。同社の人員や設備を最大限活用するため、量産品の受注を抑え、技術力を発揮できる難度の高い試作品の受注に特化している。家族経営であるが故に団結力があり、受注が重なったときには残業や休日出勤など社内一丸となって対応、納期は必ず守っている。

野田部長は「証券会社時代に一時間ごとにノルマを与えられ、必ず達成してきました。目標を設定し、目標達成のための手段を自ら考えて実践し、その手段を検証・改善し、次の仕事に活かすことが重要」と語る。その考えを従業員にも広めており、従業員各自が設定した目標の達成を目指す。

し、日々の業務の改善を図ることで、納期の順守や品質の向上を図っている。

製品を大切に扱うことも同社の特長の一つである。取引先へ納める大事な製品だからこそ大切に扱いたいと梱包に気を遣い、特別な段ボールに収納する。時には自ら届けることもあるという。

確かな技術と細やかな心配りにより、日本を代表する大手企業を含むメーカーから、日成工業だったら絶対にやってくれる」という絶大な信頼が寄せられている。「おかげさまで引き合いはますます増えています。今後も展示会などに定期的に出展し、多くの人に当社の加工技術を知ってもらい、日成工業ファンを増やしたい」と野田部長は力を込めて語る。これからも、小さなプロ集団が日本の最先端技術の根幹を支えていくだろう。